

令和5年豊能町議会 第1回
交通特別委員会

会 議 録

令和5年1月13日（金）

豊 能 町 議 会

令和5年豊能町議会 第1回
交通特別委員会

年 月 日 令和5年1月13日（金）
場 所 豊能町役場 大会議室
出席委員 5名
永並 啓 才脇 明美 中川 敦司
寺脇 直子 高尾 靖子

欠席委員 1名 池田 忠史

委員外出席 管野英美子（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長 塩川 恒敏 副 町 長 川村 哲也
まちづくり調整監 松本真由美 総 務 部 長 仙波英太郎
まちづくり創造課長 田中 久志

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 清水 義和

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 阪急バス・阪急電鉄・能勢電鉄への陳情・要望について
2. 西地区A I オンデマンド交通の実証実験と実装について

午前10時00分 開会

○委員長（永並 啓君）

皆さんおはようございます。

委員の皆様、理事者の皆様、お忙しい中お集りいただきありがとうございます。

今回、交通特別委員会を設置させていただいて、これが第1回の会議になるわけですが、この間、設置した大きな背景には、能勢電の本線が、なぜか日生のほうに変わってしまう。社名の能勢っていうのはどこに行ってしまったんだ、というね、そういうぐらい緊迫した交通体系を豊能町は、そういう状況になってしまった、いうところが大きな背景にあります。

それ以外にも、2月から始まるA Iオンデマンドバスであったり、過去従来から懸念されている東地域の交通体系、利便性を高めていくといいながら、なかなか高まっていないところが背景に挙げられます。

今回特別委員会を設置させていただいて、いろいろ目的というものを、大きく3点出させていただきましたけども、なかなか、これから過疎地域にも指定され、人口も減少していく豊能町においては、だからこの交通問題っていうものは、今まで以上に便利にするということはなかなか難しいかと思いますが、少しでも不便さをなくすような、少しでも効率のいい交通網というものを、理事者の方、議員の議会、一緒になって考えていけたらいいかなというふうに思ってますので、今後、ちょっと長い、たぶん、僕の思いでは、かなり長い期間、この委員会をつくらないといけないかなと思ってるんですけども、今後よろしく願いいたします。

では座らせていただいて、進めさせていただきますと思います。

昨年12月27日に交通特別委員会が設置

され、本日欠席の池田委員を含むこの6名が委員に選任されました。

また、委員長には私、永並が、副委員長には池田委員が選任されたので、よろしく願いいたします。

ただいまの出席委員は5名であります。

定足数に達しておりますので、第1回交通特別委員会を開会いたします。

引き続き、新型コロナウイルス感染症対策をとらせていただきますので、御了承願います。

委員会の開会に当たりまして、町長から御挨拶がございます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

委員の皆さん、おはようございます。

交通特別委員会に当たりまして、一言御挨拶をさせていただきます。

委員の皆様、本当にお忙しい中、御参会を賜りましてありがとうございます。

まず冒頭に、12月議会におきまして、大変御迷惑をおかけをいたしました。深くおわびを申し上げます。

本町は、これまで、委員長もおっしゃられたとおり、非常に住民の皆さんの利便性には、公共交通としてのバス、そして鉄道、これが要でございます。で、これまでの本町は、どちらかといいますと、自家用車の依存率が非常に高く、地域公共交通と共存をしまりました。町民の皆さんに密着した交通手段であるバス、そして通勤、働く方々への鉄道、これらを含めまして、私たちの喫緊の課題は、利便性の向上であるというように感じております。人口減少に加えて、近年ではコロナの影響、外出制限というところもあり、そしてテレワークというところの働き方改革もあり、利用者数の減少も顕著であります。

一方で今後、高齢化に向けて、免許返納

など多く、地域交通としてのニーズ、多様化がますます進んでくると思います。

しかしながら、公共交通機関では需要の減少というところで本当に厳しい状態でございますけれども、運行便数の確保に、その必要性、社会的要請に応えるため、企業も大変努力をいただいております。それに加えて、運転手不足でありますとか、燃料の高騰、こういうような経費増大の中、企業においても、そして本町においても、維持するのが非常に難しい。

しかし、地域公共交通の利便性の向上でありますとか、効率化、こういうところは、非常に重要な内容でございますので、公共交通事業者様と関係行政機関と連携をして、本町でもこれまでも定期的に継続、協議をさせていただいてるところです。公共交通の最適化、そして住民の皆さんのQOLを上げるということで、7月にはバスのダイヤ改正、そしてお話もございました来月の2月にはAIオンデマンド、区域内不定期運行の実証実験も始まってまいります。住民の人流分析も含めて、そして運行中の人流分析を比較をして、これまでも必要とする利便性の確保とともに、まちづくりにつなげてまいりたいと思います。

住民の皆さんには、チラシでありますとかホームページであるとか、お知らせに努めてまいりましたけれども、議員の皆さんにはいろいろな形でお問合せが多いとお聞きをしております。これまで十分な説明ができてなく、または共有ができていないというところも反省をしておりますけれども、このような社会環境の中でどのように維持をしていくのか、前向きに本日から意見交換ができればと願っております。

本日から、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長（永並 啓君）

はい、ありがとうございました。

それでは本日の会議を開きます。

本日の協議事項は御手元に配付のとおりであります。

本日は第1回目の会議でありますので、本委員会に付託された事件の状況などについて、理事者から説明を受けた後、質疑、委員間討議をしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

まず、1番目の阪急バス、阪急電鉄、能勢電鉄への陳情要望についてです。

昨年10月28日の全員協議会で、12月からの能勢電鉄のダイヤ改正の経緯について、理事者から説明を受けましたが、これを詳しく、もう一度説明していただけますでしょうか。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

おはようございます。まちづくり創造課の田中です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今回の能勢電鉄のですね、ダイヤ改正につきまして、これまでの経過ということで、改めまして私のほうから御説明をさせていただきます。

10月28日の全員協議会でもこの案件といえますか話題が出まして、そのときにも御説明をさせていただいたところで、重複する部分もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

まずですね、能勢電鉄のほうから最初に、私ども役場の豊能町のほうに、御説明に来られたのが9月の9日でございます。9月の9日に、能勢電鉄の担当部長、それから担当係長、計2名がですね、豊能町のほうに来庁されまして、松本調整監と私のほうで対応したと。その内容につきましては、阪急阪神グループとして一斉のダイヤ改正を行うということで、12月にですね、17日

の始発からダイヤ改正を行うという旨の説明を受けました。

で、ダイヤ改正に至った経過といたしまして、アフターコロナによる利用動向の変化に対応する形、それから現状の利用状況に合わせて輸送力の適正化を図る。それから、列車本数の減便と、直通列車の運用を見直して、土曜ダイヤの廃止などを実施したい、というような主な内容で説明がありまして、これにつきましては御報告といたしますか、決まった内容を報告されたというような状況でございました。

そのあと、10月の12日なんですけれども、能勢電鉄のほうでダイヤ改正についてプレスリリースということで報道発表を出されて、広くですね、周知のほうをされたというような状況でございまして、そのあと10月の28日に議会の全員協議会のほうで、御報告をさせていただきまして、いろいろ様々意見をいただいたというところで、12月の17日に、能勢電鉄がダイヤ改正を実施されたというような状況でございます。

以上、簡単ですが報告させていただきます。

○委員長（永並 啓君）

説明をしていただきましたが、質疑等ございますでしょうか。

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。おはようございます。

今、簡単に9月9日に能勢電のほうから役場へ説明があったというところから始まって、10月28日の全員協議会で、またお話しさせてもらいましたというね、その間の約1.5か月の中には、いわゆるプレスリリースというかね、そういったものもありましたという説明ございましたけれども、あと、この全員協議会のときにこの話が出たときに、あと町長の絡みはどうやったんやとい

うね、町長としてはどういうアクションをしたんやと、その辺りの、この能勢電から役場にこの話があって、そのあと、町長でないしたんやみたいなそういうところの話もたしかあったと思うんですけども、その辺り、もう一度何か説明できる部分があれば、お願いできますでしょうか。

○委員長（永並 啓君）

はい、塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

はい、今、御質問のとおり、このものを9月の段階で説明に来られたというところ、これを後で報告をいただきました。

これまでも、能勢電の方々とは年2回というところがございますけれども、基本的に1月と6月、そういうところで定期的なミーティングをしながら、社長とそしてそれ以外にも随時会議を行っておりますのでその報告をいただいていたというところがございます。

このものに関しましては、私もびっくりしたところでございます、その後、中野社長とも年明けになりましたけれども直接お話をし、我々の要望も含めて改めて提案をさせていただいて、そして一緒に能勢電のこの妙見線の乗降客数を上げるために、今後どういう形で取り組んでいくかというようなところも含めてお話をさせていただいたところがございます。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

能勢電の社長とも定期的にお会いするような場面もあるというふうなこともおっしゃっておられましたけれども、実際この9月9日に能勢電から役場のほうに報告いうかね説明が来られる、その前段のこの部分ですかね、それでいけば年に2回、このいわゆる能勢電とのやりとりがされる場面

があるということですが、それは大体何月と何月、定期的とおっしゃってますけど、何月にされるようなことになってるんですか。

○委員長（永並 啓君）

はい、塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

大体、あの定期という形で社長交えてという部分では1月と6月、年2回というようなどころでございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、9月9日に説明に来られる3か月前には、その社長さんなどと面会か面談されるような場があったけども、その場でも全くそのような気配はなかった、話の中にはなかったですか。

○委員長（永並 啓君）

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

はい。6月のときのお話というところでは、令和4年度に入り、コロナの影響が非常に強いというお話とともに、ちょうどゴールデンウィークを超えましたので、そのお話ということで、今までゴールデンウィークのところの戻り方、そういうものが中心でございました。

そのときのお話は、やはり通勤定期を利用される方々、これはもう回復をしていないというような状況でございましたけれども、その段階では観光客を含めた一般定期を御利用される方が増えてきてますということで、5月の単独決算では黒字になったというところはあるんですけども、今後そのコロナの状況が非常に危惧をするところであるというようなところで、今の経営状況のところのお話を中心でございまして、今回のお話はその6月の時点ではなかった

というところでございます。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

実際その料金改定をしていくとなると、電鉄会社いますかね、どうしても9月9日に我々のほうに説明があったということですけども、じゃあ9月の1日からまさかこのダイヤ改正しようかみたいな、そんな短期間でやれるようなことじゃないとは思いますが。

そういった意味で、ある程度の企業としても、何か月ぐらいか何か知らないけども、ある程度の期間を準備してやっていかなあかん内容かなとは思いますが、これはいつぐらいから実際こういう計画を考えてたのかは、相手方のことやからわからないとは思いますが、ざっくりどれぐらいからこのダイヤ改正を検討していたかみたいな、ある程度何かわかる部分ありますか、こちらのほうで。

いつぐらいからこんなん考えてはったんとかいう。

○委員長（永並 啓君）

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

松本でございます。

今の御質問なんですけれども、そういうやりとりの中で意見交換もまちづくり創造課のほうと能勢電鉄もしてきたわけなんですけれども、そういうことはございませんでした。

ただ、こちらから意見交換のときですね、人口が減少したことによる今まで10分ピッチだったものを、人口が減ったからといって20分ピッチに戻すということはしていただかないで、人口の減少の中でそういうことのお考えもあるでしょうけれども、うちの町の活性化のことを考えると、20分

ピッチにまた戻されるというようなことをされますと、まちづくりのこれからについてちょっといろいろな懸念がございますので、そのそこはいかがですかというようにやりとりは何度もしてたという記憶は私の中にはあるんですけども、能勢電鉄からはそもそも10分ピッチを守りたいんだったら、人口減少で通勤客が減ってる通学客が減ってるっていうのは理解するけれども、では妙見口のあたりでイベントをするとか観光の充実を図るとかいうことで、乗客数を違う形で復活させるような取組っていうのはどういうふうに考えているか、というあたりの話はいろいろしておりました。

イベントのほうにも能勢電のイベント電車というのを走らせていらっしゃったんですけども、そのイベント電車にもまちづくり創造課から職員が出て、妙見口駅あたりの活性化が一緒に取り組むことができないかということで、意見交換の中でそれはやってみようということでしたというところはございました。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは町長のお話でもありましたけど、今、松本調整監の話の中でもありましたけども、全く能勢電のこのダイヤの改正うかね、変更するようなことを考えてますみたいな、そういうふうな話は全く会話の中にはなかったというふうに私ちょっと受け取ったんですけども、そうであるならば、本来はどうあるべきなのかという部分もあるんですけども、今までにも、今回電車のダイヤの改正というふうな運行のね、変更ということですけども、当然豊能町内にはバスも走ってますけども、バスに関わる何らかの変更事項、ダイヤ改正とか料金改定とかもあったかと思えますけども、そ

ういった場合で、もう今度料金変えるよとか、ダイヤ変えるよという、パンてその説明だけじゃなくて、あらかじめ、前もってこういうことを考えてますみたいなそういうアクションをね、こんなん起こしていきまますみたいなそういうふうな前触れの話は過去にありましたか。阪急バス、能勢電もそうやけど、過去どないでしたか、何か変化をさせる場合には、あらかじめ何か前もって何かそういうような話っちゃうのはありましたか、どうですかその辺り。

○委員長（永並 啓君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

交通事業者がこういったダイヤ改正でありますとか料金改定をする際にはですね、当然のことながら、電鉄会社の場合は国交省、それからバス事業者の場合は近畿運輸局にこういった変更を行いますということで、当然届出なり、許認可なりを受けて実施するわけなんですけども、大体、今までのパターンからもそうですけども、大体2、3か月前ぐらいから、やっぱり豊能町のほうにそういったことをしますということで、報告があるんですけど、それ以前からですね、恐らくいろんな調整がある中で、またその不確実な部分がある中での報告というのは一切なくてですね、ある程度本当に決まって、これでも行くというところで初めて報告をいただくような状況でほかの場合もですね、そういう状況でございます。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今のその2、3か月前というね、今期間の話がございましたけども、そのぐらいになって初めて何らかの話が出てくるというふうな、今御説明がね、田中課長のほうか

らありましたけども、その期間、2か月なり3か月というふうなそういう期間を考慮に入れると、今回この9月9日というのはまさにその2、3か月手前というそういうふうな解釈ができるのではないかとというふうにとれるんですか、どうですか。

○委員長（永並 啓君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

そうですね、能勢電が来られたとき、この9月9日に来られたときのお話ぶりからしますと、もうこれで決まったというか、報告としてさせていただきますというような内容でしたので、ある程度状況が確定したうえで、報告をされたのかなというふうに認識しています。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、過去からのバスなんかのダイヤ変更とか料金変更とかいうそういうときと同じような時期にあらかじめのお知らせが来たというふうな、今回のものでもあるという、そんなふうに解釈していいですか。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

私ども、そのように理解をしております。

○委員長（永並 啓君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

そのうえでさらにお伺いしますけども、今回じゃなくて過去ですね、ダイヤ変更とか料金改定とかいうそういうふうなことをしていきますというふうなことを表明される説明があった後に、何らかのアクション

とか、逆にいやそれちょっと、とかいうふうなことをいうような場合も過去ありましたか。

それはどうですかね。いやあ、そらしゃあないね、みたいな感じになってるのか、その辺り過去どうでした。

○委員長（永並 啓君）

暫時休憩します。

（午前10時23分 休憩）

（午前10時23分 再開）

○委員長（永並 啓君）

委員会を再開いたします。

松本調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

はい、御質問についてなんですけれども、今日の会議までに以前の記録もちよっと見えてはきたんですけども、意見交換、報告等、各交通事業者からあった後にですね、こちらからアクションをしているというふうな記録はちよっと読み取ることができなかったのが事実でございます。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

あと、私も地域公共交通会議、あれは私もずっとできる限り傍聴はさせていただいておりますけども、確かバスの値段が変わるっていうのがここ2年ぐらい前かな、何かあったような気がします。

で、あれについてはあの場で何かお金が変わります、料金変わりますみたいなことを、そこのいわゆる地域公共交通会議で諮って、皆さんに意見を聞いて、賛成多数やったかな、何かそれで結局、何かそこで合意が取れたみたい、合意が取れたいうたらおかしいかな、なんかそんなふうなことがあったと思いますがそれであってますかね。

○委員長（永並 啓君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

令和2年度に豊能西線の運賃を改定をしておりますので、このときは地域公共交通会議にお諮りをして、協議をいただいて、合意を得て、運賃改定したということでございます。

で、これなぜかといいますと、阪急バスの豊能西線につきましては協議運賃というのを採用しておりますので、地域公共交通会議で運賃を決めるということになっております。

で、通常のバス路線につきましては、対キロ運賃といひまして、要は交通事業者がその距離によって、走らす距離によって運賃を決め、もともとその決まってるものがあるんですけど、距離によって運賃決まっているので、地域公共交通会議で諮らなくても、その距離の運賃を採用しているんですけども、豊能西線につきましては協議運賃というのを採用しておりますので、地域公共交通会議、地域の皆さんで決めた運賃で走らすというような状況になっておりますので、西線につきましては地域公共交通会議でお諮りして決めたというようなことでございます。

なので、例えば豊能町でいいますと、東能勢線とか北大阪ネオポリス線とか、こういったバス路線につきましては、地域公共交通会議で運賃を決めているのではなくて、対キロ運賃、距離によって決まっているもとの運賃で走らせているというような状況でございます。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そういうね、特殊な構造になってますよというようなことの説明やと思いますけども、ちなみにそうしたら今、たまたま料金

についてはこの西地区の部分については協議して決めていくというふうな位置づけやから、あの場の会議に諮って諮りましたよ、ですけども、そしたら運賃以外に何かその協議で皆さんに諮らなければならないというのはほかに、ダイヤの件とかそんななんも何かあったりするんですか。

それはバスだけですかね、ちょっとその辺りも確認をお願いします。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

地域公共交通会議で検討を行う案件としましては、いわゆる二次交通といひまして路線バスとかタクシー、豊能町デマンドタクシー走らせてますけども、そういった交通モードになります。

で、基本的には鉄道というのは地域公共交通会議の検討事項の外になってまして、ただ町内の地域公共交通の事業者であります能勢電さんにも委員さんとしては入ってもらってるんですけど、案件としては、バス、それからタクシー、それ以外の例えば福祉有償運送でありますとか、そういったものが入るんですけど、鉄道以外のものが対象になってくるということになります。

○委員長（永並 啓君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、そういうふうな特別な事情から考えますと、今回の能勢電のダイヤの変更といひますか、それについては地域公共交通で図らなければならないという案件ではない、ということではないですかね。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課、田中です。

はい。おっしゃるとおり、諮る案件ではないということになります。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、地域公共交通の会議で諮ることができない内容というふうなものもあるということなんで、それはそれで、また今後考えていかなあかん部分なのかなと思ったりもしました。要は、こちらからもアクション起こしづらいのかなというふうにも思ったんでね。

そういった意味で、その辺りも今後、何か今後の対策っていったらおかしいけど、今後こういう事例があったときにはどうしていくんやみたいのも、場合によっては今後考えていかなあかんのかなあと思った次第でございます。

これは意見でございます。

○委員長（永並 啓君）

はい。

ほかに、才協委員。

○委員（才協明美君）

9月9日の説明を受けてから10月28日までの全協まで。それと、そこからまた1月にお話されに行かれたということなんですけど、この辺の経緯を詳しく教えていただけますか。

全協で言うまでのこの期間、それと1月に行かれたということなんですけど、そこまでの動きというか、何かアクションはあったのでしょうか。

これが、住民がそれでああそうか、と見過ごすかと思われたことはないと思うんですけど、どういった動きがあったのか教えていただけますか。

○委員長（永並 啓君）

それは報告を受けて行政がどういう対応をしたかということでもいいですか。

たぶん特には何もしてないのかな。

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

はい、おはようございます。

先ほど町長のほうから1月ということですから、新年の御挨拶を兼ねてですけど、能勢電鉄の社長、私も町長と一緒に同席させていただきましたけれども、副社長等々、総務部長等も含めまして来られたという中での意見交換という形でございます。

私ども先ほど町長申し上げたとおり、ダイヤ改正に伴ってという話のところちょっと、やはりかなり大きな影響も出てるといことは、向こうの能勢電の社長の方にもお伝えをさせていただいたという状況でございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

1月に行ったんじゃないかと、来られたんですか。

○副町長（川村哲也君）

能勢電の方が来られました。

豊能町役場のほうに来られました。

○委員長（永並 啓君）

はい、才協委員。

○委員（才協明美君）

では、こちらから行ってお話をするということはなかったのですか。

○委員長（永並 啓君）

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

現状で申し上げるとそういうことでございます。

○委員長（永並 啓君）

ほかに。

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

高尾でございます。

能勢電鉄が、いろいろ3年ほど前に豊能町は人口が減ってるから人口増やしてくださいというようなことをおっしゃっていたのはちょっと聞いておりますが、そのことで、ときわ台駅の駅前の開発というか、ロータリーなんかの改善とか、そういうのもあったと思うんですね。

ほんで、駅構内のエレベーターの設置をお願いしたときに、それは実現したんですけども、やはりそのときも人口増やすいうことをすごく求めておられたと思うんですね。そういうことじゃなかったのかなと思うんですけど、その点はどのようにお考えですか。

駅前開発に伴う、やっぱ人口増ということもあったと思うんですけど、能勢電、また阪急バスともにね、そういうところ辺はどういうふうなことがあったのか、もしお考えがあったらおっしゃってください。

○委員長（永並 啓君）

はい、塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

建前というところでございますけれども、その当時というのは駅前の利便性をやるということで、エレベーターそれから通路の改修から、駐輪場をつくってやっていくというところ、それと同時に、能勢電アートラインでありますとか観光客を増やす、それから駅前のイベントであるとか、それから能勢電さんもおでん電車を走らせるとか、妙見口のところでパン、そういうようなイベントも含めてやっておりました。

ところが、令和元年の12月にコロナが発生してから、本当に予測がつかないということでピタッとそのものがとまったと。

したがって私たちっていうのは、コロナで発生したときに、本当に外出制限というところでしたので、ハイキングの方とかっていうのがもう激減をしたというような状態

のところから企画をしている。同時に危惧をしながら一緒に進めてきたわけですけども、もうそのときというのはこのコロナどうなるんでしょうね、というような状態で、落ちついたときには、こういう観光客をさらに上げていきたいと思います、というようなお話はしておりましたけれども、コロナが開けていないということで、アフターコロナに向けてはこんなことをというのは話題にのっておりました。

○委員長（永並 啓君）

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

駅前ロータリーのことで回答させていただきます。

駅前ロータリーの改修工事については、豊能町の地域公共基本構想に基づいて計画が立てられていたというものでして、駅前に阪急バスをおろしてくるというための整備であったということでございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

ありがとうございます。

それは実現したということでは、すごく住民の皆さんから期待感が持たれてて、いつ本当に便利な公共交通になるのかいうことを皆さん待ち構えております。

それが今回、2月からのA I デマンドタクシー実証実験の形になったんだと思うんですけども、実際は、しっかりしたバスが路線として実現はまだこれからという格好ですよ。

それはそれとして、能勢電鉄が、やはりこのコロナ禍で大変な思いどころもされている中で、特に豊能町は人口減になっていることと、乗降客が1日5000人あったと光風台駅なんかはそういわれてて、それがあったからこそ、エレベーターね、光風台

駅構内にもエレベーター設置されたという経緯があるんですけども、やはりそれからどんどん減って、今、日生と乗降客が逆転してるっていうことがもう最近いわれていますね。

その中で、やはり人口増というところで、町もまちづくりとしてね、いろいろと頑張っていたらと思うんですけども、将来なかなかこの人口というのはそんな急激に増えるものではなく、じわじわと施策が浸透していく。ほかの自治体へも浸透して、あそこに住んでみようかということになるんだと思うんですけども、一番、今ダイヤ改正ということで困っているのは、豊能町の住民、高齢化しているということが一番ネックになってるんですね。

私ども、このことについて、住民の皆さんたちとともに、いろいろとお話があったんですけども、で、その中で能勢電鉄に要望書を出されているんです。その回答も来てるんですけども、だから、どういう要望かといいますと、妙見口駅の直通電車を何らかの形で確保してほしい、そういうことなんです。というのは、

○委員長（永並 啓君）

すいません、高尾委員。それはどこが出された要望なんでしょうか。

○委員（高尾靖子君）

豊能町を共に創る会。

○委員長（永並 啓君）

後ろどういう団体で、ここの場でまたそれは別途、どうしたらいいかっていうのは交通特別委員会では考えます。

○委員（高尾靖子君）

そうですね。

○委員長（永並 啓君）

はい。

そういういろんな、

○委員（高尾靖子君）

運動もしてるということでお伝えしてるんですね。

住民運動もあって、能勢電鉄からも回答も得られているということで、お伝えしておきたいと思いますが、そういう中で、やはり、階段を上ったり降りたりということは、高齢化の皆さん、豊能町にとっては、疲れて帰ってくる時にはそういうところでの厳しさがね、寒い時期に向かっては、そういうことがものすごく皆さん身に染みて伝えられてきております。

それと能勢電鉄は3分間の山下駅着いてから階段を降りて上がって、エレベーターはいっぱい待ってはるから、階段上がってっていうようなところでの、次の妙見口駅の電車に間に合わないと、そういう実態もあるんですね、それはもう皆さん御存じだと思いますけど、今回はそういう問題がね、ひしひしと伝わってくる中で、やはり豊能町としても本当にもっと頑張っていたきたいと思いますし、私ども交通委員会ではそのために交通委員会も、委員会をもって何とかしようじゃないかということで設置されたわけですから、この点しっかりとまちづくりも含めてね、これからやはりもっと頑張らなければ、能勢電鉄ももっともっと10分が20分にしていくことになるのかなど。今回は10分間隔で踏みとどまったと、そういうふうにもね、聞いておりますけど、その点これがまた最悪にならないようにね、不便な町ということのイメージがないようにということで私どもも意識してね、豊能町とともに、こういう、やはり住民さんがよりよい交通機関の安心して便利な、そういう形がとれるようにね、進めてほしいと思いますし、町としてもね。

私どもはこの交通特別委員会ということでの皆さんの要望も聞きながら、今話し合っているところですけど、まとめていかなあ

かんのかなと思います。

○委員長（永並 啓君）

今のは要望で。

○委員（高尾靖子君）

そうですね。

これは要望の中で入れていきたいと思うんです。

エスカレーターを設置してほしいとかね、そういうのも出てきますので、

○委員長（永並 啓君）

今これまでの経緯についての、具体的にどうこうするというのは次かなと思ってるんで、今はこれまでの経緯についてちょっと確認をしておこうかなと思ったんで、ちょっと私のほうから何点か。

まず、町長が知ったのは、まず、いつかというところですね。9月9日にまち課のほうに報告があって、それで町長が実際にこのことを知ったのはいつかっていうところと、これ報告を受けた中で、アフターコロナ、土曜ダイヤの廃止、乗客数からそれに見合う見直しっていうところは、たぶんここら辺はね、どこの路線も常にやってるんですよね、微妙な修正であったり。

ただ今回のダイヤ改正で、たぶん豊能町の光風台、ときわ台、妙見口を利用される方だけがやたらめったら不便なってるんですよね。わざわざ乗換えが、直通がなくなるという、何本かに1本減るっていうならわかるんですよ。でもゼロになったんですね。それで、帰ってくるときは、いちいち階段を降りて上がらないといけないというような、かなりの不便さを強いられるようになった。例えば便数がちょっと減るっていうようなところは、若干の時間が変わるっていうダイヤ改正というのは、これまでも阪急さんもいろいろされてきてるんですけど、今回はちょっと内容が、この報告をされた内容以上に不便さのほうに際立って

いる。

そういう意味で、まず町長がいつ知ったのかお聞かせいただきたいのと、プレスリリースがあって現実を皆さんが知ったわけですね、こういうふうになるって。その直後に、アクションは取ったのか取ってないのか。いやこれは違うじゃないかと、もっとこういうふうに、いやここまでは聞いてないよと。これだと、豊能町の住民は本当に不便になるし、直通で行けなくなるじゃないかと。これだったらますます人口が減ってしまうよと。

何かそういうプレス発表を見た後に、豊能町から能勢電に対してアクションは取られたのか、まず、これを教えていただけますか。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

9月の9日に能勢電さんが報告に来られた。で、そこからですね、私が知ったのはちょっと日程が定かではありませんけれども、少し遅れた状態で、私どものほうに報告に来ていただきました。その段階のときはそれを向こうの思いでありますとか、そういう部分をお聞きをしながら、そして、我々としての要望という部分も、まとめていかなければならないということで、一緒に庁内で協議をさせていただいた。

そして、我々のほうからお邪魔をさせていただきたいというところに、要望もさせていただきましてけれども、10月の全協までかかってしまったというところでした。で、10月の全協が終わってからですけれども、能勢電のところには、私のほうからも何度か電話もさせていただきながら、意見交換さしてほしいということ。それからお邪魔させていただいていいですかというような形のものもさせていただきましたけれども、日程調整が合わなかったというところ

ろでございます。

ちょっと遅れたというところを、

○委員長（永並 啓君）

すいません町長、こういう経緯を知るときは、具体的に行った、いついつこうしました、いついつこうしました。

そこで、思いとかこうしたかったけどっていうことが入っちゃうと、もうね、全くわからなくなってしまうんで、

○町長（塩川恒敏君）

お電話した日程はちょっとメモしておりませんので本当に申し訳ございません。

○委員長（永並 啓君）

すいません。

大体、町長がこれを把握されたのはちょっと遅れてって、本来であれば9月9日に能勢電のほうから報告が来ました。そしたら、もう9日には知らないと駄目なんですよ。こういうことがありましたっていうことはね。かなり深刻な、わざわざ相手の担当部長、担当課長が来て、そういう報告をされているわけですから、そこがどのくらい、ちょっと遅れてっていうのが、そこはちょっとわからないですか。

はい、松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

9月9日の報告を受けてですね、すぐに町長・副町長に御説明にあがろうと思っていたんですが、あいにく日程のほうの調整ができず、時間を取っていただく隙間を見てたんですけども、この時間を見ている間に時間が過ぎてしましまして、報告させていただいたのは9月の末ぐらいになってしまったということでございます。

申し訳ありません。

○委員長（永並 啓君）

さすがにこれは、かなり問題になりますよね。

やはり緊急性の非常に高いものであり、

もしアクションを取るのであれば、報告を受けた直後に、町長なりに松本さんのほうから感触なりを聞いたうえで、ちょっとそこでいろいろと要望を今町長がまとめてっていうことを言っておられましたけど、それは結局できなかったわけですね。そういうことに関しては、やはりすぐにまとめて最低限ここだけは守るというような、その確認なり、そういうのは1回しておかないといけないと思うんですね。

そこら辺が非常にちょっと残念だったなっていう、人が足りないからちょっとね、仕事量が多いっていうのはわかるんですけども、この件に関しては、ちょっとそういう対応を取って欲しかったなというところは、非常に残念な部分ではありますね。

はい、才脇委員。

○委員（才脇明美君）

すいません。この役場で町長とこの話をするのに、そんな調整をせな駄目な状態なんですか。

というのはこれからも、こういうことが起こったらこのバットニュースはすぐに報告をしないと駄目なのに、この9月9日から末までの20日ほど、もう連絡が取れない。横におられる、横におられる部屋なのに、こういう状態なんですか。ほんな大会社、大企業なんですか、ここは。

お聞かせください。

○委員長（永並 啓君）

はい、松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

日程の取り方っていうのが一つありまして、町長・副町長の日程を見たうえでですね、空いてる時間を秘書人事のほうにお伝えして取っていただくっていう、ちょっとそういうルールがあります。

ただこの件に関しては、5分でも10分でもお時間をちょうだいするとか、朝とか、

お昼の時間を取ってですね、私のほうが飛び込みで行かなければならなかったっていうことは、大変反省しているところでございます。

申し訳ございません。

○委員長（永並 啓君）

そうですね。そこら辺は今後というか、これからなかなか、豊能町の状況を踏まえると、まわりの豊能町に携わっている特に交通の民間事業者なんかは、いいニュースで持ってこないですよ。

どちらかという、縮小や削減っていうところのほうが多いわけですね。

そういった何か、それ以外にもいろんな悪いことであつたりとかがあつたときに、もうすぐにも連絡を取れるっていう体制というのは組織として最低限必要なことだと思うんで、そこら辺は本当に今後こういふことがないようにお願いしたいというふうに思います。

ほか何かございますか。

はい、寺脇委員。

○委員（寺脇直子君）

何点か確認させていただきたいんですけども、今日の交通特別委員会はこれまでの経緯の確認が主であるということですので、実はその住民の方からその直前に山下の乗換えを知らされたというような御意見が出てたりもしてまして、非常に高齢者が多い町ですので、突然山下で乗換えになったことを知らされた住民の方、何ていうんですかね、その怒りというか、そういう御意見を私もちょっと聞いたんですけども、この阪急グループ全体でダイヤ改正とか決まったことを報告があつたということで、これは民間企業の方針とか、いろいろあるとは思いますが、この山下で乗換えるっていうことは、利用している住民の方にとっては非常に高齢者も多いですし、乗換え

の時間と関わってくるので阪急グループから一方的な報告があつたということですけども、こういうことに対してですね、交渉というか、もう一方的に言われてもそれに従うというか、何か少しそういう何か交渉する余地とかなかったというか、今後のこともあると思うんですね、今後は人口もまた減ってくるとかいうときに、何かまたこういうことが何か体制が変わつたみたいなことが一方的に報告があつてついうことになつても大変だと思うんで、その辺ちょっとお聞かせください。

○委員長（永並 啓君）

はい、川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

今の件でございます。

ちょっと若干ちょっと細かいちょっとマニアックな話になるかもしれませんが、お聞きいただければと思います。

今回 10 分ヘッド、特に山下駅で乗換えが非常に 3 分ということでございまして、非常に短いという部分で、これにつきましてもう少し改善ができないのかということは、私、能勢電鉄社長のほうに申し上げました。

これについての回答ということでございますけれども、まず、山下駅と妙見口間、こちらが所要時間 8 分でございます。途中、御存じのとおり光風台駅で行き違いがございます。それが大体 10 分でヘッドを動かすとなると、ちょっと光風台駅で列車の行き違いがかかるということになります。この 10 分ヘッドを維持するということになれば、所要時間が 8 分ということになりますので、山下駅の滞在時間はおよそ全部入れても 2 分から 3 分程度ということになってくると。

あと線形の改良もできないのかという話もさせていただきました。

これ日生中央も、以前でしたら、妙見口行の電車の場合、日生中央が 1 番線ホーム

から2番線ホームに行ったりとかする線形やっと思ったんですけども、これが妙見口のほうでできないのかという話もさせていただいたんですけども、これは路線の線形の関係上ちょっとできないということで、これをすると大幅な工事がかかると、もうかなり莫大な費用がかかるとということで、これについてちょっと非常に難しいという御回答もいただいております。

確かに3分というのは非常に難しいという部分があるんですけど、ただこれを逆に延ばしてしまうと今度は10分ヘッドが維持できなくなってしまうと、20分ヘッドになってしまうというちょっと御回答いただいたというところでもありますので、この点についてはエレベーターをもう少しちょっと、例えば近いところといいますか、例えば高齢者の足の御不自由な方とかいらっしゃるかと思うんですけども、そのエレベーターの運用を使うとかですね、その辺のぎりぎりまで待っていただくとかいうようなところでの改善というのができないのかということは私のほうからも、その要望をさせていただきました。

確かに時間の10分ヘッド維持するのか、それとも、高齢者の時間を維持するのかで、非常に悩ましいとこだと思います。

ただ能勢電のほうもその点については、やはりそういうお話、住民の方からのお話もいただいているというところもありますので、その辺も踏まえて改善できるところは改善したいというようなお言葉もちょうだいしております。

というような状況でございまして、私どものほうからもそういう御提案をさせていただいているということは事実として申し上げさせていただきたいと思います。

○委員長（永並 啓君）

ごめんね。

今聞いているのは、その報告を受けた後、すぐ後。

○副町長（川村哲也君）

申し訳ございません。

報告を受けた後でございます。

ダイヤ改正なってからです。

○委員長（永並 啓君）

そうではなくて、報告を受けてから何らかのアクションをとったかっていう、そのタイミングの問題、それはいつですか。

○副町長（川村哲也君）

私が申し上げたそのダイヤ改正後の話になります。

○委員長（永並 啓君）

の、いつですか。

○副町長（川村哲也君）

1月でなくて、もう少し。

ちょっとすみません、今、期間を覚えていないんですけども、

○委員長（永並 啓君）

大体でいいです。

○副町長（川村哲也君）

10月か11月だったと思います。

ちょっとすみません。今手元にちょっと記録がないもんですので、申し訳ございません。1月ではありませんけど、もう少し早めの段階でちょっとお話をさせていただいたと記憶しております。

○委員長（永並 啓君）

このどういうふうな要望・陳情していくかというのはこの後話し合うんですよ、こういったことはできないかとか。

今はどちらかという、それまで報告を受けて、経緯についての意見交換をしますんで、それを踏まえて、寺脇委員のほうは、報告があった後に何らかの能勢電に対するアクションが取れなかったのかっていうところなんで、だからそこについて回答をお願いしたいかなと。

で、今回の改正に伴って、豊能町の住民だけがかなり不便になっていると。でも、能勢電にもたぶん僕、ちょっと進め方に問題があるかなと思っているのは、利用者への説明とか、そういったものがないんですよ。何か通常のほかの駅と同じようなダイヤ改正でこうなりましたというような一方的な報告で、能勢電さんが利用者のほうに丁寧の説明したかといったらそういう感じでもないし、そういったところもちょっとそれがね、大企業としていいのかっていうたら、そこはちょっと疑問が残るところかなとは私のほうも思ってるんですね。

これから、今経緯のところを、いろいろと確認してるんですけど、これまでの経緯の中で何か質問があれば。

寺脇委員は大丈夫。

今の回答でいいのかな。

(「はい」の声あり)

○委員長(永並 啓君)

はい。

ほかに何かありますか。

管野議長。

○議長(管野英美子君)

管野です。

オブザーバーで参加させていただいてるんですけども、能勢電との関係がすごく希薄だなと思うんですね。7月26日の地域公共交通会議でも、そんな話は出ていなかったじゃないですか。11月4日の会議でも事後報告で、こういう理由でということ詳しくおっしゃったんですけども、本当にこの7月の段階で話していただけなかったのかというのがとても残念です。

もう1点なんですけど、これはちょっと議題から外れるかもしれませんが、この能勢電との関係が希薄ということで、11月13日に事故っていうかトラブル起こってるんですけども、それは聞いておられますか。

笹部駅のことなんですけど。

○議長(管野英美子君)

もう、言います。

ドアを開けたまま発車したみたいなんです。11月13日の20時07分、笹部駅で発生した列車、転動というんですね、転ぶっていう字に動く、お客様に多大なる御心配、御迷惑をおかけしましたということで。乗客のほうは、扉を開いたまま発車させる、こういうことが妙見線です許されるのでしょいうね、ということなんですけど、こういう報告すら受けてないということがちょっと私は心配です。今後の能勢電との関係で。

しっかりやっていただきたいと思います。

○委員長(永並 啓君)

今の報告は受けたんですか、受けてないんですか。

はい、松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監(松本真由美君)

何も報告はございませんでした。

○委員長(永並 啓君)

はい、管野議長。

○議長(管野英美子君)

笹部駅での乗降がなかったということですから、ほとんどその座った状態で、住民は豊能町の住民じゃないですか、こういうことを私は初詣のときに、駅でこういうふう貼ってあったのを写真撮ってきたんですけどね。

こういうこともしっかりやっていただかないと、これは命に関わることなので、よろしくをお願いします。

○委員長(永並 啓君)

ほかに何か、経緯のところ質問があれば。

(「なし」の声あり)

○委員長(永並 啓君)

じゃあ、ちょっと私のほうからまだあるんで。

まち課のほうも、結構もう10分ヘッド、先ほどから副町長も言われてますけど、10分ヘッドを確保したいっていうところが、すごい先にあるのかなと。それに関して、僕は非常に残念だったのは、減少していくのは仕方ないのかなと、10分が。僕が子どもの頃たぶん一番多かったんですよ、高校生のときとか。もう、ときわ台からもう人が落ちるぐらいで乗ってたんですけど、そんなときで、20分か15分だったんですよ。それが何かどんどん人が減っているのに10分になってすごいな、というふうに乗らないけど思ってたんですね。

だから、そこで思ったのは、実際に住民のサイドに、僕は意見を聞いてどういうのがいいか、例えば交渉するにしても、10分を守るほうがいいのか、それとも15分20分にしていいから直通を残すほうがいいのか。そういった日頃からの利用者へのアンケートなりヒアリングというのがなかったところが、一番ちょっと問題なのかなという気もしてるんですよ。

だからどうしても、先ほどからの答弁を聞いていると、10分を守ってください10分守ってくださいって言うてるわけですよ。そうすると能勢電側も10分を守るためにはこうしないと、豊能町からの要望は10分だっていうところになってしまう。そしたらこういう状況になったのかなと。そこが、そういうところがあるのであれば、直通のほうを優先するっていう選択もあったかと思うんですね。

そういった中で、もっと利用者の声というものを日頃から聞いておくということが非常に重要になってくるのかなと。これから、10分に1本が、例えば15分、20分というのはなってくる可能性のほうが高いわけですね。そうなったときのためにも、今後、どういったところを重視してもらいた

いかっていう、豊能町としては、利用者に常々そういう声を聞きながら能勢電とそういう話し合いをしていかないと、地域公共交通会議で顔合わせてるから意見交換をしても、利用者の声がなかったら、ただの思い込みの意見交換になるんですよ。

やはり何か事業を進めるってなったら、その利用者なりの現実っていうものを把握したうえで交渉に当たらないと。

一生懸命やってるのはわかるんですけど、それが利用者の身にあったもの、本当に利用者が望んでることなのかっていうところがズレてたら努力が無駄になってしまいますよね。

そういったことから、今後、これ交通問題ってこれからそんなにね、先ほども冒頭でも言いましたが、便利になっていくものではないんで、常に利用者なりの動向というか、声を聞きながら、鉄道やバスの事業者と意見交換なり、交渉をしていってもらえたらと思います。

経緯のところ、ほか何かございますか。

(「なし」の声あり)

○委員長(永並 啓君)

それでは一応経緯の把握っていうものは、一旦これで置いといてですね、今後、これからちょっと休憩後、どういったことを陳情・要望なり行くのかっていうのを、意見交換をさせていただけたらなと思います。

ただ、いろんなパターンがあると思うんですよ。その住民さんの利便性を高めるうえで。だから、今日この場で、これっていうのが、まとまらなくても僕はいいと思ってます。いくつかあって、それで現実的にどれがいいのかっていうところを精査したうえで、能勢電のほうに陳情・要望に行けたらいいのかなというふうに考えてますんで、その時間を10分休憩した後からちょっと意見交換をしたいなと。そのときに、先

ほど川村副町長が言っていたいただいた能勢電との交渉の内容なりを、また説明していただけたらなと思うんで、よろしく願います。

それでは休憩します。

再開は11時15分で、願います。

(午前11時3分 休憩)

(午前11時15分 再開)

○委員長(永並 啓君)

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

それでは今から、能勢電、まずは能勢電ですね、能勢電鉄に対してどういう要望、こういうふうにしたらちょっと今の現状不便だけでも、ちょっとでも利便性をあげるために、こういうことをしたらいいかということ、理事者と一緒に議論していけたらなと思うんで、もし何か、先ほど川村副町長が、まずは一部答弁されてた内容、簡単に説明してもらえますか。

何を申し入れて、どういう回答が来たかっていうところを。

はい、川村副町長。

○副町長(川村哲也君)

先ほどちょっと答弁の内容を簡単にもう少し細かく、御説明させていただきます。

まず委員長のほうから日にちがいつだったかというところがございます。今の休憩時間でちょっと確認させていただきました。10月の31日に能勢電の社長以下、こちらのほうにお越しいただきまして、意見交換会を行わせていただいております。

私どものほうから申しあげましたのは、ダイヤ改正によってその山下駅で乗換えの時間についての確保、これについて私のほうから申し入れを行いました。これについての回答というのは先ほど申しあげたとおり、るる申しあげましたけれども、ちょっとそのダイヤの運行上ですけれども、もう

なかなか難しいという回答をちょうだいしたというところがございます。

○委員長(永並 啓君)

すいません。

確認ですけど、山下駅での乗換えっていうものは、行くとき、帰るときですか。

○副町長(川村哲也君)

すいません。

ですから、川西能勢口から妙見口に行くときの、いわゆる1番線から3番線への乗換えについてということです。逆に妙見口から川西能勢口につきましては同一ホームで乗換えということですので、これについては申し入れは行っておりません。

○委員長(永並 啓君)

はい、中川委員。

○委員(中川敦司君)

ごめんなさい。ちょっと確認ですけどね、山下駅のホームの形状があつての話や思いますけども、今のもっぺん確認やけどね、我々が妙見口なり、ときわ台から乗って、山下で乗り換えるときには、いわゆる3番線のホームにとまってくれるから、日生中央から来る電車でそのまま同じプラットフォーム上で乗換えができるというね、それはOKなんやけどもという話やね。

逆に、能勢口からこっち来るときに、いわゆる日生中央駅の電車が通常は1番線にとまって、そのまま真っ直ぐ日生中央に行きますけども、それをどっか別なホームに入れることができないのかっていう話じゃないんやね。

○委員長(永並 啓君)

川村副町長。

○副町長(川村哲也君)

ちょっとその話はちょっと本来ではありませんけれども、基本的にはその線形の話、先ほど申しあげたとおり、ちょっと話が混乱するかもしれませんが、以前、妙見口

に行く直通電車があったときの時代なんですけれども、日生中央行きの電車というのは、1番線に最初とまっておりますけども、これが2番線のほうへ引き返してやってたという経緯があったと思うんですが、こういうことができないかということは、その補足の中では私のほうから御提案させていただいたんですが、その3番線と4番線と行き違いの施設がないということで、これは線形の変更が必要であるということの御回答いただきましたので、ちょっとそこはもう現実問題難しいのかなというところで私は感じておりますけれども、基本的には1番線からいわゆる3番線、いわゆる日生中央駅行、それと妙見口行、1番線と3番線の乗換えの利便性の向上、これについて意見を能勢電のほうには申し入れを行いました。

(説明のため板書)

○委員長(永並 啓君)

ちょっと中川委員が書いてる間、確認しますけど、従来ね、深夜になると全部妙見口行になってたんですよ。それで日生の方は山下駅で乗り換えると。その際には、日生中央行は妙見線がとまる3番線とまって、迎いの逆方向の2番線に日生行がとまっていたんですね。

じゃ、普通に考えると、平日昼間のダイヤだったら10分おきに来るんですけど、深夜だと間隔があくから、例えば、日生中央行の直通電車を2番線にとめてもらって、そうすれば向かい側に3番線のところに妙見口行があることになりますよね。

そういったことはできない。できる。

それだったら可能かと思ってるんですけど、ただ昼間の10分間隔の時は難しいかもしれないけど、夜の例えば時間があいたときであればいけるのかなという感じではいたんですけど、その交渉はされましたか。

はい、川村副町長。

○副町長(川村哲也君)

すいません。

ちょっと短時間の意見交換ですので、具体の細かいところまではすいません、そこまでは話をさせていただいておりません。

あくまでも日中ダイヤ、日中から朝ラッシュ、日中、夕方ラッシュ、そこまでの時間帯を主に念頭に置きながらの意見交換でございます。

○委員長(永並 啓君)

だから一つの提案としては、そういうところが可能なのかなと。

ただね、10分間隔で流れているところではそれはちょっと難しいかもしれないけど、それが深夜のちょっと間隔があいたときであれば、今までやってた逆をしてもらうだけですね。

直通の日生中央を2番線にとめてもらって、迎いの3番線の妙見線に乗れるっていうような形をとっていただくっていうことだけでも、可能なのかな、とは考えてるんですけど。

じゃ、中川委員。

○委員(中川敦司君)

すいません。

ちょっと私なりに、能勢電鉄の山下駅のプラットフォーム及び線路のざっくりとした配置を、私の頭に残っている限り書いてみました。たぶんこれで合ってるのかな。これがいわゆる能勢口と日生中央を結ぶ、今回本線といわれるほうですね。これの本線を挟んだプラットフォーム、1番線、2番線、それに対して妙見口から伸びてきている線路ですね、支線、ここのプラットフォームが3番・4番、この認識でまずよろしいですか。

○委員長(永並 啓君)

はい、川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

お答えさせていただきます。

中川委員の認識で間違いございません。

○委員（中川敦司君）

川村副町長おっしゃってたのは、行きしなは、こっちから来るときは3番線にとまるから、そのまま2番線の電車に乗れますねと。ただし、帰りはどうしてもこの日生中央に行く電車はここにとまるから、どうしても、ここまでプラットフォーム渡らないかんというね、そういうことがあって困る状況になっている。

で、妙見口行の電車を、ここからここへ移動するとかいうふうなことできないかということをご提案してくれはったということなんかな。

○委員長（永並 啓君）

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

いわゆるそういうようなことも含めての運用ですね、できる限り同一ホームでできないかというようなことの提案というのをさせていただきます。

○委員長（永並 啓君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

私なりの考え言うてもいい、一つ、かまへん。

可能やったら、ここの1番線にとまる日生中央行を2番線にとめてもうて、そのまま日生中央までこの線で真っすぐ行けないかな、たぶんできへんと思うけどね。たぶん信号システムがこっち向きの信号システムないと思うんで無理かと思うけども、一応、対向車、対向してくる電車そのものの時間帯と影響ないんであれば。

○委員長（永並 啓君）

今それを全部話たと思います。

○委員（中川敦司君）

それも提案・課題の中に入れてたいということですか。

○委員長（永並 啓君）

はい、川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

すいません。

ちょっと何か専門的というかマニアック的にちょっとなっておりますけれども、今、中川委員の御質問ですけれども、日生中央行の電車があると同時に、今度、川西能勢口行の電車が来るんですね、日生中央から同時間に。

ですから、そのところでいうと、妙見口から川西能勢口に乗るお客さんがいらっしゃる、逆もあるということで同じ時間になってしまうと、全部それが。

ですから、仮に2番線に日生中央行の電車が来ると、今度川西能勢口行の電車の行き場がなくなってしまう。仮にそうなってくると今度1番線にとめざるを得ないとなってくると逆の問題が発生するということで、この線形もやっぱりなかなか難しいと、工夫ができないということで、能勢電鉄のほうからの回答があったということでございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、この山下駅そのものでうまいこと隣り合わせのプラットフォームに、電車をとめて移動してもらおうというかね、乗換えしてもらおうという方法は、まずちょっと山下駅ではちょっとまず無理だなと、今のこの構造では。そういうことですね。

○委員長（永並 啓君）

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

ですから両方向ですね、いわゆる川西能勢口から妙見口行くお客様、妙見口から川

西能勢口行くお客様が、同じ時間帯での同一ホームで乗換えというのは技術、物理的に困難であるということになります。

○委員（中川敦司君）

同一時間というのが、今のミソな部分やけど、同一時間じゃなかったら、

○委員長（永並 啓君）

中川委員、それ全部さっきやってる。

○委員（中川敦司君）

そういうことね。

そういうことでいいんやね。

○副町長（川村哲也君）

だから、先ほど申し上げたように10分ヘッドという時間が前提となります。それで先ほど申し上げたように、妙見口と山下の間が8分かかるということで折り返しが2分しかないという中で、その逆で、要するに両方を満たすという解は、もうその方法しかないということでございます。

○委員長（永並 啓君）

ほかのスイッチバックというか、この方法以外に何か具体案がありましたら、高尾委員、先ほど要望等を説明しておられましたが、その中で何か、これと違うものがあれば、ちょっと説明していただけますか。

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

今、副町長がおっしゃったのは、日生中央駅の2番に待機している川西能勢口行の電車が待機してるときがありますよね。

で、豊能町の妙見口駅から3番から2番に移り変えて、川西能勢口に行くという格好が今はとれてるんですが、じゃあ帰ってくるときに豊能町は2番のほうについてもらって、すぐこっち側の3番に川西から来たときに乗換えられるようにしていただけないかという要望を出されてるんですね。

その回答は不可能ではないと、技術的には、そういう回答がきていまして、実施の

ためには、線状改良や、線の改良ね、それから運行システムの変更等で多額の設備投資が要るので、我が社としては大変利用実態を踏まえると、経済的合理性に欠くので、大変ちょっと無理があるというふうに回答されてきてるんですよ。

向こうもお金がないというかね、ほんで、結局能勢電の山下駅の豊能町側にそういう廃止されるということもあるけれども、箕面市のほうでも直通の梅田行も、あそこはなくされてるんですよ、阪急系統が。それで、同時にそういうことも含めて聞かれたのかなと思いますけれども、やはり見直しい点ではそこまでやっぱり阪急電鉄、能勢電鉄知ってたんだというのが改めてわかったんですけども、それがそういう回答がきてまして、あと妙見口行の直通電車を何らかの形でいうことも含めていうてんですけども、これもやっぱり、今先ほどからずっとでてる人口減で、もう大変厳しい利用状況から厳しいということで、今回のダイヤ改正における妙見口行直通電車の廃止、各駅におけるお客様の利用者数の推移等を踏まえ、利用実態に即したダイヤとした上で、可能な限り全線10分間隔は維持したものの、お客様へのサービスは、ここで保っているというふうな、そういう回答されておましてね、これ以外に、また改めてエスカレーターをつけてもらったかどうかというようなこともいわれてきてますけど、これもまたここでいわれてるようなお金がすごく要するという方向ででてくるんじゃないかなというふうに思いますので、大変苦しい、要望も苦しいんだと思ってるんですけど、そこはよく考えてやらなあかんと思います。

○委員長（永並 啓君）

要望内容については、すぐにこれがいいっていうところではないかと思うんですけど

ど、先ほども川村副町長もおっしゃられたように、10分ヘッドを守れなくなる、じゃあこれは20分ということにすれば可能という判断も出てくるわけですね。

だからその、どっちがいいのかといういろいろと選択をしていかないといけない。どこかを、すべて今までみたいに利便性を保つということが難しく、その中でどこを守りたいか、それが10分なのか、もしかしたら20分でいいから乗換えが楽になるほうがいいのかっていうものは、これはどこかのタイミングで利用者へのアンケート等も取っていかないといけないかもしれないですね。

そういったのも踏まえて、そういうのも、能勢電さんと協力しながら一回やってみましょうっていうのも要望の一つだと思いますし、あと一個は運賃の面でちょっと何か考えてもらうというのも一つだし、いろいろ方法あるんで、そういったことをいきなり陳情・要望の段階で、これとこれとこれをやってくれっていうことはなかなか確定はできないんですけど、まずそういうふうには、コミュニケーションを議会としても能勢電とコミュニケーションを取れるような体制をこれから構築して行って、住民の皆さんにとってよりよいか、少しでも利便性が維持されるような方向に持っていけたらと思いますんで、そういう感じでいかがでしょうか。

問題なければ2月ぐらいに一度、交通特別委員会の委員長・副委員長、これまでは、委員長・副委員長ぐらいやったかな、行ってたの。と、議長・副議長、副議長は僕になってしまいますけど、ぐらいで、行政は入ってたかは、そこを確認しますが、そういったのも調整して能勢電鉄のほうに一応要望・陳情をまずは行っておこうかなと思いますけども、それまでにいろいろね、

議員さんの中でいろいろ意見交換なりをしてこういった方法あるんじゃないかとか、またあったら、情報共有して、住民の皆さんもいろいろ情報届いている部分もあるんで、そういったのも踏まえながら、いろいろ検討していけたらと思うんですが、そういった方向でよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(永並 啓君)

そしたらこの問題は引き続きというか、今後、継続的にしていくことかなと思うんで、この辺で今回は終わりたいと思います。

次に、2点目の、西地区A I オンデマンド交通の実証実験と実装について、であります。

2月1日から実証実験始まりますが、具体的にどのように進められるのか、予約、乗車場所、ルート、検証期間、広報などについて、田中まちづくり創造課長、説明をお願いします。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長(田中久志君)

はい、まちづくり創造課の田中です。

それでは引き続きましてA I オンデマンドの経過含めてどのように進めていくかというところにつきまして御説明をさせていただきます。

このA I オンデマンド実証実験につきましては、11月8日の地域公共交通会議のほうで合意を得まして、そのあと11月の末になりますけども、交通事業者、阪急バス株式会社と京都タクシー株式会社のほうで、運輸局への申請を行っていただきました。

で、12月末ですね、年末になるんですが27日だったかと思うんですけども、運輸局のほうから認可がおりてまいりまして、2月1日からの実証実験運行を行えるようになったということでございます。

で、住民への周知、広報につきましては、

1回目 12月25日配布の広報とよの1月号にA4両面刷りのチラシのほうを同配のほうさせていただきまして、まず皆さんに認知してもらおうといたしますか、知ってもらおうということで、こういう「HANI+（ハニタス）」という乗り物が走りますよということで広報させていただきました。

で、1月11日になるんですけども、運行開始のプレスリリースということで、豊能町・阪急バス・京都タクシー3社の連名になりますけども、プレスリリースのほうを行っております。

で、今後の予定ということなんですけども、今月25日に入ります広報とよの2月号にさらに詳しい、ミーティングポイントがどこであるとか、どういうふうに乗るのかとか、そういったもう少し詳しい10ページから12ページぐらいの冊子になったものを、広報とよの2月号で、皆様のほうにお知らせをするという段取りをしております、1月の18日になるんですけども、各ミーティングポイントには標識ですね、ここがミーティングポイントですということで標識のほうを、18日に設置しようというふうに考えております。

で、1月22日の日曜日なんですけども、光風台中央公園のほうにおきまして、公園でのイベントを行う予定にしております。その際に、このハニタスの車両をですね、お披露目ということで公園のほうで展示いたしまして、皆様にこういう車が走るんかということでちょっと見ていただくような機会を設けようとしております。そのときにはアプリのほうのインストールですとか、予約の仕方とか、そういった説明もさせていただこうというふうに思っております、同日、22日日曜日なるんですけども、西地区の自治会のほうに、各自治会のほうにお邪魔しまして、役員中心になるかと思う

んですけども、自治会のほうへ、5自治会説明のほうに行こうというふうに考えております。

で、そのあとの予定なんですけども、23日から24日にかけて、コールセンターのほうのスタッフの研修、それから25日にはドライバーの研修、いうことをさせていただきまして、1月の27日から予約のほうの受付を開始したいというふうに考えております。

で、2月1日には、運行開始ということで、この日はちょっと出発式といいますかちょっとセレモニーなんかも行いながら、2月1日に運行開始していきたいというふうに考えております。

その他、今周知のところでチラシだけではなくてですね、ちょっとポスターなんかもちょっとつくろうかということでもうございまして、各いろんな施設とかにもポスターなんかを張らせていただきまして、まずは知っていただいて乗っていただくというところで進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（永並 啓君）

はい、ありがとうございます。

それでは、何か質疑ございましたら。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

その実証実験が2月からスタートするということで、それまでの取組いいですかね、こんなふうな形でやっていきますという話でございましたけども、結局この予約についてはこのスマホアプリを使った予約と電話予約とこの2本、今んところこの2本だけなんです、今回の実験では。

○委員長（永並 啓君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今回そうですね、予約に関しましてはスマートフォンアプリによります予約と、これは24時間予約受付できます。で、電話予約のほうにつきましては、8時45分から4時15分ということで今、想定をしております。あと、テレビプッシュということで、テレビのほうで予約ができるシステムのほうの連携を今、進めているんですけども、ちょっとこのシステムのほうは実証実験運行の期間全てにおいて、ちょっと予約のほうができないということもございまして、ちょっと今回は、ちょっとテストといたしますか、実験的に予約日をちょっと限定した形で進めたいというふうに考えています。

○委員長（永並 啓君）

この予約方法はこのアプリ、「SWAT Move（スワットムーブ）」か、とよのんコンシェルジュのどちらかということでもいいですか。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

実際の予約画面につきましては、このSWATと書いてますこちらSWAT Moveのほうの予約画面で行うんですけども、こちらにとよのんコンシェルジュからですね、とよのんコンシェルジュの中の移動というメニューをタップしますと、AIオンデマンドの予約というところの画面に行きまして、そこからSWATの方に飛んでいくというようなイメージで考えております。

○委員長（永並 啓君）

何か実証実験をするに当たって、こういったところを気をつけたいほうがいいよってというような意見がございましたら、おっしゃってください。

はい、管野議長。

○議長（管野英美子君）

アンケートを取るということを聞いているんですけど、どっかに書いてあったと思うんですけど、乗るたんびにアンケートを取るんですか。どういう形で取られて、それをどのように今度また7月に実証実験されると聞いてますけど、どういうふうに活かしていくのか、乗るたんびにやるのか、お答えください。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

このアンケートに関しましてちょっと想定しておりますのが、利用者に乗っていただいたときに、紙ベースのアンケートをドライバーからアンケートに御協力くださいということでお渡しさせてもらおうと。

で、書いていただいて、あとは郵送で返してもらおうか、例えばどっか公共施設のところにボックスを置きまして、アンケート回収ボックスを置きまして、そこに入れてもらうかというちょっと方法はちょっと今あれなんですけど、いずれにしても紙ベースのアンケートを利用者に対してドライバーが配布して、お願いしますというような形で考えております。

で、今回そのアンケートで次回ですね、次年度以降のまた2回目の実験に、そのアンケートの内容をもって検証させていただきまして、活かしていきたいというふうに考えております。

○委員長（永並 啓君）

ほかに。

（「なし」の声あり）

○委員長（永並 啓君）

なかったら、私のほうから。結構あるよ。まず、この乗車予定時刻が決まるのは、予約した段階で決まるのかってところを教えてください。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

予約をしていただく際に、いつの予約か、即時の予約なのか、1時間後の予約なのか、2時間後の予約なのかというところを選択していただくんですけども、即時予約ということを選んでいただきますと、もうその今の運行状況によって、10分後に来る、15分後に来る、5分後に来るというようなことですね、画面で見れるような形になっておりまして、今の予約を確定するということにすれば、もう予約は今の状態で確定するということになります。

○委員長（永並 啓君）

じゃあ、それが電話の場合はどうなりますか。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課、田中です。

電話の場合はですね、オペレーターにその予約の内容を伝えていただくんですけども、その利用者に成り代わりまして、オペレーターが変わってタブレットに入力をする形をとろうと考えてます。

で、聞き取った内容全てコールセンターのほうで、オペレーターが代わりに入力しまして、あとは同じような形で乗車されるミーティングポイントでお待ちくださいと、約10分後ぐらいに到着予定ですということでお伝えするというような形になります。

○委員長（永並 啓君）

今回はオペレーターが入りますけど、これは継続的ではないですよ。

そしたら今回のオペレーターに係る人件費っていうものは大体いくらぐらいかかるのかっていうところと、それをなくなる、いずれなくなる、なくす、本番に行くとなくなるわけですよ。そうすると、電話で

慣れた人、電話で予約してた人が取れないということになりますよね。

そこら辺はどう考えているのかお聞かせください。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今回のコールセンター業務につきましては、ちょっとまだ契約のほうで済んでいないんですけども、約30万円ぐらいの費用になってます。1か月間ということになってます。

で、ちょっと次年度以降はどういう形でコールセンターを組んでいくかということはまだちょっとまだ決まっていはいないんですけども、ただ電話のコールセンターを全てやめるところでは考えておりません、何らかの形では維持していきたいというふうに考えてます。

で、将来的には交通事業者のほうで、そのコールセンターも含めて、運用をしていただこうという形で今、話を進めております。

○委員長（永並 啓君）

将来的なイメージとしては、今ある既存の朝夕のラッシュ時は残るけど、昼間の部分はオンデマンドバスに変わるっていうようなイメージがあるということでもいいのかな。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

そうですね。実際この実証実験を行ってみて検証したうえでということにはもちろんなりますけども、イメージとしては、今回のAIオンデマンド交通で町内の動き、人の人流が活発になるのであれば、そういった形が理想かなというふうに考えております。

○委員長（永並 啓君）

それじゃ、あとは実験をする場合は、最初に目標設定というのが要るかと思うんですけど、どのくらいを目標に定めているのか、これはたぶん運転免許の高齢化率と返納率とかもいろいろ考えないといけないかもしれないんですけど、今現時点でどのくらいを想定されているのかをお聞かせいただけますか。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

この数字につきましては、地域公共交通会議のほうでも具体的な人数というのは出していなかったんですけども、阪急バスとの協議の中でということなんですけど、今回この実験を行う前にですね、人流分析というのをやっておりまして、いわゆるそのA I オンデマンド交通を入れた際にどれぐらいの利用者が見込めるかみたいなそういうシミュレーションを行っておるんですけども、大体1時間当たり中央値で平均で17人ぐらいで、マックスで21人ぐらいというようなシミュレーションが出ておりまして、そのことを考えますと、阪急バスといたしますのは大体19人から20人ぐらい1時間当たりですね、19人から20人ぐらいをまずは期待として持とうかと。

1日でいいますと、これ8時間運行になりますので、大体150人ぐらいを期待としてですね、持って進めていこうかというようなところで今、阪急と話をしておるという状況です。

○委員長（永並 啓君）

では150人ぐらいが成功という判断でいいんですか。

あと、これ、報道資料にポイントでも使えますみたいなことを書いてましたけど、このポイントっていうものは、どのくらい

の割合で、例えば1回乗って100ポイントだったらあり得ないですよ。

それが、通常の普通のポイント制度が日本には多くありますけど、カード会社のポイントっていったら1%ぐらいなんですけど、そのレベルでの話なのか、そこをちょっとお聞かせいただけますか。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今回このA I オンデマンドを実証実験で走らせるという目的、まずは知ってもらうというところが大きなところで目的としてあるんですけども、実際に、初めて走る乗り物になりますので、皆さんなかなかそういうきっかけがなかったら乗らないというところもあるのかなというところで、今回ポイントというのも設けまして、乗車のきっかけにしてもらおうというふうに考えております。

で、このポイントにつきましては、ちょっと同じように、今月の25日に発行される広報とよの2月号にポイントに関してもチラシのほうを同配で入れさせてもらおうと思ってるんですけども、今回考えておりますのは、1回の乗車につき50ポイントで、お一人様、上限ちょっと10回乗車までということで考えておるんですけども、1回乗車するに当たり50ポイントを差上げますと。上限10回の乗車までと。ただ、初回につきましては、ちょっと特別にボーナスポイントみたいな感じでちょっとイベントチックになるんですけども500ポイントをお渡ししますと。

ですから皆さん気軽に乗ってくださいというところで、ちょっとイベントを打とうかなというふうに考えてます。

○委員長（永並 啓君）

実際に予定している金額って、運賃とい

うのはいくらを想定してるんですか。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今回のこの1か月の実験につきましては、
運賃は無料です。

○委員長（永並 啓君）

いや、じゃなくて実際の。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

実際のですか。

すいません、実際の運賃につきましては、
これ同じく協議運賃となりますので、地域
公共交通会議での協議が必要ということに
はなりますけども、想定としましては今の
西線の運賃ぐらいの程度、ですから 220 円
とか、そういった形での運賃を想定するの
かなというふうに考えています。

○委員長（永並 啓君）

それで過去に豊能町でいろいろバスの実
験してて、無料のときは乗ったけども、有
料にすると乗らないというような、過去の
経緯がありますけれども、そういったのは
参考にどの程度、参考にされてるのかお聞
かせいただけますか。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

今回の実験を行うに当たりまして、いろ
いろ他自治体でやっておられる事例を見さ
せていただきまして、猪名川町さんとかで
もやっておられる事例見ますと、やっぱり
最初無料で始めて、次、有償実験なったと
ときにはやっぱり利用者が、無料のときに比
べると7割ぐらいの3割ぐらい減になりま
す、7割ぐらいになったというようなこと
も聞いておりました。

いろいろ議論はあったんですけども、ま
ずは知ってもらおうといえますか、乗って
もらうというか、当然このオンデマンドバス

なので予約をしないといけないというそ
この一つ手間があると思うんですけども、そ
ういうところを体験してもらったりとか、
知ってもらおうというところをまずは重視し
ようということで、いろんな議論があった
中で、1回目は無料でやろうということに
なりました。

○委員長（永並 啓君）

それであと、先ほどのポイントなんです
けど、ポイントは今回の実証実験限定です
か、継続されますか。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

ポイント事業につきましても、ちょっと
次回のところでまた同じポイント事業をす
るかというところは今のところまだ、確定
ではございません。

まずは、今回のポイント事業を含めまし
て、今回のAIオンデマンド事業とポイン
ト事業、今回1か月やらせていただきまし
て、その部分を検証したうえで、次回ま
た考えていきたいと考えています。

○委員長（永並 啓君）

簡単にいうとポイントは、だって今回の
ポイントに至っては、運賃の4分の1ぐら
いを支払うということですよ、想定して
いる。

これはもう通常になるとあり得ない金額
であるし、たぶんポイントに関して補助金
なんかはたぶん出ないと思うんで、ポイン
ト事業というものはちょっと慎重に考えな
いと、大体クレジットカードで何万円も使
ってやっと1%で何とか使える金額。

じゃあこのバスの利用で、例えば1%の
ポイントをつけたとしても、200円で乗っ
て毎回2円がたまっていくような計算なん
ですよ。そしたらポイントとして使うよ
うな金額にならないということになるんで、

そこら辺はウォレットを中心に慎重に考えてもらいたいと思います。

ほか何か運行に関してこういったところに気をつけてもらいたいなどありましたら。

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

とよのんコンシェルジュということで、これ申込みする、予約することになるんですね。

それちょっと確認します。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

はい、そうですね。実際の予約自体は、予約を取るだけでしたら、実際このSWAT Moveというアプリで予約ができるんですけども、今回スマートシティの事業の中でとよのんコンシェルジュの普及ということも考えておりますし、今回ポイント事業というのあわせて行いますので、ポイントをためるということも同時に行っていたきたいというのがありますので、今回は一旦とよのんコンシェルジュとSWAT Moveと両方入れていただきまして、予約に関してはとよのんコンシェルジュからちょっと予約していただくというようなイメージで考えております。

○委員長（永並 啓君）

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

タクシー会社に直接かかるということではないんですね、コンシェルジュとしての予約受付、コールというのかな、なるわけですね。

はいで、タクシー会社には一切直通ではかからないこといいんですか、これ。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今、走っておりますデマンドタクシーは、直接タクシー会社のほうに電話していただいて予約していただいているんですけど、このAIオンデマンドに関しましては、コールセンターというのを別で設けまして、タクシー会社ではないコールセンターを設けまして、そちらのほうにかけていただくと。

基本的にはアプリの予約なんですけども、当然スマートフォンを持ちでない方もいらっしゃると思いますので、その方は電話のほうで予約をしていただきまして、オペレーターが代わりにアプリ入力するという形になります。

○委員長（永並 啓君）

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

予約することで乗ることになっても、何かトラブルがあった場合は、その予約した先の人に連絡とか、そういうのは行くんですか。待ってられてて、トラブルがあった場合はどうなるんでしょうか。

ちゃんとその方に連絡が行くのかどうか。その辺が。

○委員長（永並 啓君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課、田中です。

遅延とか、考えられるトラブルといたしましては遅延とかになるかと思うんですけども、一応、あらかじめその御案内をさせていただくときに、大体約何分ぐらいで到着しますという御案内をさせていただけると思ってまして、一応ただですね、交通状況ですとか、そういったところが考えますと多少ちょっと20分程度、最大で20分程度のお待ちいただく時間があるかもわかりませんというような、ちょっとそういう御

案内にはなるかと思えます。

だから1回予約終わってから何か連絡をするというようなことはないかなというふうには考えています。

○委員長（永並 啓君）

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

20分後に、そこで待つという格好になりますよね、予約した駅で。そこで待ってる間、なかなか20分たっても来ないいう場合も、もしかしたら出てくる、そういう事情が出てくるかもしれないんだけど、その場合は待ってる人に対して、連絡は全く行かないということになりますか。

アプリで予約してるわけですけども、それは全く本人には届かないことなるのかどうか、その辺確認したいんです。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

一応、もう配車ができないというような状況はちょっと想定はしておりませんで、今回通常運行の場合3台、それから予備車両1台ということで4台で回す予定なんですけども、その中で配車が、もう要は予約はしたけども全然来ないというようなことは、そういったサービスはもうしないということで、4台の中で例えば何かその1台に何かそういう行けないような、もう状況がですよ、恐らくないと思いますけども、そういう状況が発生したときには、別の車両が向かうとはいうようなことで対応するというところでございます。

○委員長（永並 啓君）

よろしいですか。

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

結局前のときにも聞いたと思うけども、

いわゆるアプリで予約した人については、何らかの形でバスの運行状況とかそういうのがわかるような、この画面見たらね、ようなことはできるけども、電話で予約した人に対しては、全く何も連絡はその後ただけないという、その二つですよ。

もう1回確認。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

はい、委員おっしゃるとおりでございます。

○委員長（永並 啓君）

ほかに。

才協委員。

○委員（才協明美君）

もう決まったことですから、今、四の五の言うつもりはなかったんですけど、ちょっと一言言わせていただきたいんですけど、これはやっぱり西地区のほうだけの特典でありまして、なんぼ実証実験といいますが、車を走らせることだけではなく、まだポイントを付与されるということは、やっぱりこの不公平感がかなり存在すると思います。

その、これはもう決まっていますから、もう致し方ないんですけど、ちょっとその辺の、もしフォローなり、何かあるのであれば、お答えいただけますか。

○委員長（永並 啓君）

一応今回の委員会の目的の中に東地区の利便性向上というものも掲げております。

東地区に、現在デマンドタクシーが運行しておりますが、こっちが成功はそんなにしていないという。こういうのも踏まえたいので、もし対策なりが、今回の、こっちでの西地区での社会実験を踏まえて活かせるものもあるかと思うんですが、それをどう

考えてるのか、それも含めて才協委員の質問にお答えいただけますか。

はい、松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

松本です。

もちろん東の地区をですね、置いているというわけではございません。実験実証するときに数値がたくさん取れるところでの実験ということで今回西地区を選んでいるということでございます。

で、先日ですね、テレビプッシュの御説明に東の自治会のほうにもずっと回ってまいりました。その中でこれに期待感すごく持たれてたのが希望ヶ丘でした。希望ヶ丘については、テレビプッシュの説明に行ったんですけども、話の中ではまちづくりの話、交通の話になりまして、この実証実験が今後どういうふうに東のほうで展開していくのかっていうことを説明してほしいということをおっしゃられまして、なぜ西のほうですかという説明を私してきました。それについては御理解、もちろん数字を取れないことには、企業も今後進めていく方向っていうのが見せられないということで、理解いただきました。で、必ずですね、この実験を成功させてですね、東のまちの中、希望ヶ丘の中、免許証返納している方が多いということで、進めていただきたい。それから希望ヶ丘から言われたのは、デマンドタクシーはお金を支払っていただくっていう形で乗っていただいているんですけども、阪急バスのシニアパスを持っている方が希望ヶ丘は非常にグランドパスっていうんですけども、これを持たれてる方が非常に多いんですね。

このグランドパスを使って、東の交通の利便性をあげてくれへんかっていうところではこれが合致するから、だからこれは成功させて東に持ってきてくれというふうに

希望ヶ丘でも伺いましたので、もちろん東のことをですね、置いて進めているわけではなくて、それを見据えたうえで進めてまいりたいと思っております。

○委員長（永並 啓君）

よろしいですか。

だからね、どうしてもね、実験ってなると人が多いところってなると自動的に西ばかりになるんですよ。そうすると、東とのバランスが取れなくて、特にスマートシティっていったら、そもそもの構想自体が地方の地域の過疎の少ないところでも、ITの技術を使って同じようなサービスを受けれるってところが国の戦略ですよ。民間企業は人が多いところで利益になればそれでいいんですけど、わざわざ補助金を出してっていうのはそういうところが背景にあるんで、それ豊能町の中で同じように民間企業みたいなやり方をしてるのであれば、ちょっと違いますよね。

豊能町の中でも、こういう情報格差がある部分に関しては、やはりそこら辺のフォローを継続的にしながら、こっちの実験は西ですけど、こっちの実験は東ですよみたいなバランスとりながらやっていかないと、これが成功したとしても、情報格差が出てしまったら、全域では運用できないということになっちゃうんですよ。

そこら辺は気をつけて運用していただけたらと思います。

ほかに何か。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○委員長（永並 啓君）

ちょっと最後にもう1点だけ。

説明会1月22日って言われましたけど、やはりこれ走っていると、このバスは何だろうなって、そこから興味を持たれる方が非常に多いのかなと。最初の事前のプレス

報道で知らない人もたくさんいるけど、実際に目の前をこのバスが走ると、関心を持たれる方がいるとは思うんですけど、こういう説明会っていうものは、何回かやっていく必要があるかと思うんですけど、その予定をお聞かせいただけますか。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

ちょっとまだ日程までは確定していませんけども、2月入ってからでもですね、実際運行が開始してからでもですね、やはり教えていただきましたとおり、やっぱり知らなかったと、この乗り物はなんだということになりますので、2月入ってからでも何回か説明会をさせていただこうというふうに考えております。ちょっと日程のほうはまだ確定しておりませんが。

○委員長（永並 啓君）

それはよろしく願いいたします。

はい、高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

これ名前がついていますよね。

これには、とよのんマークとかはつけないんですか、全く。

つけたらあかんのですか。

○委員長（永並 啓君）

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今回このハニタスということなんですけども、この阪急さんのほうの阪急とA Iというのがちょっと合体したような造語になっています。

で、将来的には阪急バスの交通事業者として、阪急バスに運行してもらおうというイメージを持っておりますので、そこはちょっと阪急さんのほうに、ちょっと主導権を握ってもらってですね、ラッピングのデザ

インとか、名称ですとかそういったところは阪急さんのほうに委ねたというところがございます。

○委員長（永並 啓君）

でもね、今の段階は豊能町の社会実験でしょ。将来的にはそうかもしれないけど、そしたら、そういう社会実験を最初にしたときは、いろいろマスコミも取上げられたり注目されるわけですよ。そういうところを利用して、そこにとよのんが貼ってあるとか、豊能町で社会実験してますみたいなことを、やはりそういう場を使っていかないと。

だから、最初に手を挙げました、ただだと、新聞の一つに載るだけかもしれないけど、たぶん今回のたぶんテレビも入っているところが注目されるのかなと。そういったところをいろいろ貪欲にね、お任せしてしまったらそれはそれで終わっちゃいますよ。そういうところでもちょっと、ここに実装した場合は当然阪急さんにお任せですけど、今の段階、豊能町もお金を出してやってるわけですから、豊能町でやってますみたいな、PRというのはどっかに貼ってもらいたいですよ。でっかいステッカーぐらい貼って。ペタッと貼るだけでいけるでしょう。そういうところも貪欲に、豊能町の魅力をあげる意味でもやっていただけたらなと思います。

ほかに何か。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○委員長（永並 啓君）

この件に関しては、いかんせん実験が始まってからどういう状況になるかっていうところの結果を見て、またいろいろ議論していくことにはなるかと思うんですけども、ぜひとも成功するように持っていかれたらなと思うんで、いろいろ意見交換をこれから

もして行って、ぜひともうまく行って先ほど松本調整監が言われたように東地区でもうまくいくような形で豊能町の交通網の軸となるような形をとっていけたらと思うんで、ぜひとも今後ともよろしく願いいたします。

今日のところは以上となりますが、また意見を聞きながら、要望する日程なり、情報交換などを共有をしていきたいと思えますので、そこはよろしく願いいたします。

今日は以上で終わりたいと思いますが、何かございますでしょうか。

よろしいですか。

(「なし」の声あり)

○委員長(永並 啓君)

それではこれで第1回の交通特別委員会を閉会したいと思います。

お疲れさまでした。

午後0時5分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 交通特別委員会

委員長